

地理A 指導と評価の年間計画（2単位・年間70時間）

1 目標

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 到達目標に向けての具体的取組

- ・現代世界の地理的な諸課題に対する関心を深め、課題意識をもつことができるように、身近な事例からテーマを設定する。
- ・世界の諸地域の生活・文化の特色を多面的多角的に考察できるよう、授業ごとに内容を工夫する。
- ・生徒が興味・関心をもって主体的に学習に取り組めるよう、日常生活と関連付けたり、地理的機能が身に付くように、地図や統計などの地理情報の収集、選択、処理、諸資料の地理情報化や地図化などの作業的、体験的な学習を取り入れる。
- ・定期考査では、知識・理解に偏らず、思考・判断・表現も評価できるよう問題作成に工夫を凝らす。

3 年間指導計画

月	編	学 習 項 目	時間	学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
4		第1章 地球儀や地図からとらえる現代世界 1 観光による結び付き 2 地域間の結び付き	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市観光やエコツーリズム、農村観光など、観光を題材にして、地理学習への興味・関心を高めるとともに、国際的な人々の移動についての学習を通して、観光という視点から地域や国家間のつながりを理解している。</li> <li>・諸資料を用いながら交通やインターネット、貿易の構造について学び、地域間の結び付きやその変化、現代の特質を理解している。</li> <li>・鉄道路線敷設について考察、航空写真の読み取りを通じて地理的機能を身に付けている。</li> <li>・地域や国家間の結び付きについて興味・関心をもって授業に参加している。</li> <li>・学習内容に関する諸事象を、主題図や写真、グラフから捉えている。</li> </ul>	定期考査 ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
5		3 国と国の結び付き 4 地球儀と地図  まとめと復習 「岩倉使節団の行程をたどる」  1 学期中間考査	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家の3要素と国境、日本と外国との関係、国家間の結び付きと国際組織、日本と周辺諸国との間の領有権問題について学び、国境の意義や領土問題が人々の生活に及ぼす影響などを考察している。</li> <li>・球体としての地球、季節と時差、地球儀と主な図法による世界地図、現代の地図とGISを学習する。異なる図法の世界地図の比較学習を通じて様々な世界地図を場面に応じて適切に扱う技能を身に付けている。</li> <li>・国家の領域に関する知識を身に付け、日本の領土問題を理解し、考察している。</li> <li>・世界地図を図法の違いで適切に使っている。</li> </ul>	
6		第2章 世界の生活・文化の多様性・ 1 人々を取りまく地形 2 人々を取りまく気候  1 学期末考査	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の大地形の形成と地下資源との関係について世界的な視野から学習している。</li> <li>・地形環境が人々の生活に及ぼす影響を理解している。</li> <li>・大気の大循環と気候の地域性、世界の気候区分、各気候帯と気候地域の自然環境の特色とそこで営まれる生産活動を世界的な視野から学習している。</li> <li>・学習を通じて気候環境が人々の生活に及ぼす影響を理解している。</li> <li>・世界の地形・気候について興味関心をもって授業に参加している。</li> <li>・自分が生活している地域の地形や気候の特徴について考えている。</li> <li>・地形や気候についての知識を身に付け、主要要素の分布の特徴を世界的な視野で捉えている。</li> </ul>	
7	第1編 現代世界の特色	3 人々を取りまく経済と文化	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の農業や工業の発達と特色、経済活動のグローバル化、民族及び言語や宗教についての学習を通じて、経済と文化における地理的環境や歴史的背景の影響について理解している。</li> <li>・生活と宗教の関わりについて考察している。</li> <li>・異文化尊重の態度が重要であることを理解している。</li> <li>・白地図を用いた作業学習に意欲的に取り組み、課題を完成させようとしている。</li> </ul>	定期考査 ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
9		4 世界各地の生活・文化・ (1) 東・南・東南アジアの生活・文化  2 学期中間考査	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境や宗教と言語、社会と産業の特色の学習を通じて、文化の多様性、環境と生活や産業の関わり、経済発展の要因を理解している。</li> <li>・日本との文化的・経済的な関わりを考察している。</li> <li>・この地域の経済発展の要因が理解できたか。また、自分の生活との関連から捉えている。</li> </ul>	
10		(2) 西・中央アジアの生活・文化  (3) アフリカの生活・文化  (4) ヨーロッパの生活・文化	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イスラム教、乾燥気候、石油資源の開発、民族と文化についての学習を通じて、宗教や自然環境、資源開発と人々の暮らしとの関連を理解している。</li> <li>・パレスチナ紛争の学習を通じて国際問題を考察している。</li> <li>・パレスチナ問題を国際社会の問題ととらえ、解決に向けての取組を考えている。</li> <li>・自然環境、植民地支配の歴史、産業の特色についての学習を通じて、この地域の経済や民族紛争に歴史的背景があることを理解している。</li> <li>・経済発展を始めたアフリカと日本のこれからの関係について考察している。</li> <li>・アフリカと日本との関係の将来的な方向性を考察している。</li> <li>・自然環境、生活と文化、言語と宗教、EUと経済の特色についての学習を通じて、この地域が文化的統一性をもちながらも各地の環境に根ざした多様な生活・文化を有することを理解している。</li> <li>・EU統合による各地域の変化を捉えて、問題点を考察している。</li> </ul>	定期考査 ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
11	(5) アングロ・ラテンアメリカの生活・文化  (6) オセアニアの生活・文化  まとめと復習「世界各地の生活・文化」 2 学期末考査	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南北アメリカの歴史、自然環境、生活・文化、産業の学習を通じて、自然環境や資源、植民地としての歴史などが多様な文化や産業に結び付いて地域的特色が生まれてきたことを理解している。</li> <li>・日本の生活・文化との共通点や異質点を見い出している。</li> <li>・ニュージーランドとオーストラリアの生活・文化の学習を通じて、自然環境と生活との関連を理解している。</li> <li>・太平洋という「同じ海」に面した国である日本との違いを考察している。</li> <li>・意欲的にまとめと復習に取り組んでいる。</li> </ul>		

12	第I編 現代世界の特色	第3章 地球的課題の地理的考察 1 環境問題 2 資源・エネルギー問題 2 人口・食糧問題	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>酸性雨、オゾン層の破壊、地球温暖化、熱帯林の減少、砂漠化について学び、これらは人類が地球的視野で取り組むべき課題であることを理解している。</li> <li>資源やエネルギーの利用について学び、資源の偏在や有限性、消費の地域格差を理解し、持続可能な発展と国際協力の必要性、日本の役割について考察している。</li> <li>人口問題や食料問題の学習により、途上国と先進国では問題が異なることを理解している。</li> <li>諸課題について解決方や課題を自分なりに考えている。</li> <li>写真などの資料から諸課題の現状を読み取っている。</li> <li>個々の事例について知識を得て、原因を理解している。</li> </ul>	ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
1	第I編 現代世界の特色	4 居住・都市問題  まとめと復習 「相互に関連する地球的課題」	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口集中と都市問題の発生、途上国での都市問題、先進国での都市問題の学習などを通じ、人口集中によって生じる諸問題、途上国と先進国間の違いを理解し、解決の方策や課題を考察している。</li> <li>統計資料から諸課題の現状をつかみ、問題の所在を見付けることができたか。将来的な予測を立てている。</li> </ul>	定期考査 ワークシート ノート 発言 机間指導 レポート
2		第II編 生活圏の課題	第1章 地図は生活必需品 1 身のまわりの地図	6	
2	第II編 生活圏の課題	2 地形図の読み方  まとめと復習「地図で読む『二十四の瞳』」	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>地形図の読図に必要な基礎的知識を身に付けている。</li> <li>河川、扇状地などの地形図を用いて読図の技能を身に付けている。</li> <li>地形図の読図に必要な基礎知識を身に付けて、地形図の機能や活用方法について理解している。</li> </ul>	
3		第2章 自然環境と防災 1 日本の自然環境の特色 2 自然災害の事例  3 日本の自然災害への取り組み		6	
3	第II編 生活圏の課題	第3章 生活圏の諸課題と地域調査 1 生活圏の諸課題 2 東京都青梅市の地域調査  学年末考査	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活圏の地理的な諸課題を地域調査やその結果の地図化などによって捉え、その解決に向けた取組などについて探究する活動を通して、日常生活と結び付いた地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付けている。</li> <li>地域調査について、事前調査、整理・分析Ⅰ（仮説の設定）、現地調査、整理分析Ⅱ（仮説の検証）、発表の手順や方法について学んでいる。</li> <li>地域調査の立案に意欲的に取り組み、学んだ知識を生かしている。</li> <li>身の回りの課題を地図化して、分布図などを作成する技能を身に付けている。</li> <li>分析やまとめ、発表の方法が理解している。</li> </ul>	
				70	

## 単元指導計画

1 単元名 :「地図は生活必需品」

2 単元の目標 :

地図や諸資料を使って、情報伝達方法や活用方法を学習し、その有用性を理解させる。地理情報システムなどを活用する技能を養う。  
地形図の読図に必要な基礎的な知識を学習し、生徒に身近な地域の地形を読み取る技能を養う。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
地図の活用と地域調査に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	地図の活用と地域調査について、生活圏の地域的特色や地図を活用した地域調査の方法などを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	地図の活用と地域調査に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	地図の活用と地域調査について、生活圏の地域的特色や地図を活用した地域調査の方法などを理解し、その知識を身に付けている。

4 取り上げる言語活動と教材

- (1)言語活動 各個人の要望を入れた旅行計画を班で話し合って決定し、発表する。  
(2)教材 基本地図帳、JR時刻表、旅行計画書

5 各授業時間の主な内容(単元指導計画)

	学習活動	評価の観点				評価規準
		関	思	技	知	
1 時間 目	【ねらい】地図帳や時刻表の鉄道路線図などから有用な情報を選択して、ワークシートにまとめさせる。  ○時刻表を使って、高山市へ行く列車を調べる。			●		地図帳や時刻表の鉄道路線図などで高山市の位置や路線を確認し、列車の時刻を調べて、ワークシートにまとめている。(技)
2 時間 目  本 時	【ねらい】地図帳や時刻表の鉄道路線図などから有用な情報を選択し、他の生徒の意見を取り入れながらワークシートにまとめる。  ○地図帳と時刻表を使用し、東北地方への旅行計画を班で立てる。 ○地理情報システム(GIS)を利用して、被災地の模擬巡検をする。			●		地図帳で目的地を確認し、時刻表の鉄道路線図を利用して現地まで到着する計画を立てるなど、諸資料から有用な情報を選択して、読み取ったりワークシートにまとめたりしている。(技)
3 時間 目	【ねらい】地理情報と地図について、地図の有用性などを理解し、その知識を身に付けさせる。  ○地図記号を学ぶ。 ○地形図を読む。	●				地理情報と地図に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。(関)  ● 地理情報と地図について、地図の有用性などを理解し、その知識を身に付けている。(知)
4 時間 目	【ねらい】2万5000分の1地形図など、地理情報と地図について、地図の有用性を考察し、ワークシートにまとめさせる。  ○羽島市と、その周辺の地形図や、地理情報システム(GIS)を利用して、地図と実際の地形を見比べることで、地図の有用性を考察させ、その結果をワークシートにまとめる。		●			地理情報と地図について、地図の有用性を考察し、その過程や結果を適切に表現している。(思)

## 地理 A 学習指導案

単元名	地図は生活必需品		
本時の主題	模擬巡検「東北の被災地へ訪問しよう～時刻表を使って旅行計画をつくる」		
本時の目標	<p>○地図帳で目的地を確認し、時刻表の鉄道路線図を利用して現地まで到着する計画を立てるなど、諸資料から有用な情報を選択して、読み取ったりワークシートにまとめたりしている。【資料活用の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳と時刻表を使用し、東北地方への旅行計画を班で立てさせる。</li> <li>・地理情報システム（GIS）を利用して、被災地の模擬巡検をする。</li> <li>・グループで話し合い、地図帳と時刻表を使って目的地への経路を調べさせる。</li> <li>・これまでに学習した地形の学習を、実際に見た地図や映像の中で応用する。</li> <li>・東日本大震災の被災地の様子を見て、災害に遭遇したときはどのような判断をすべきか、考えさせる。</li> </ul>		
	指導の内容	学習内容	指導上の留意点・観点別評価
導入 10分	本時の目標と活動内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岐阜から被災地「気仙沼」までの旅を計画することを説明する。             <ul style="list-style-type: none"> <li>a 出発は岐阜羽島駅 出発時間は自由。</li> <li>b 二日目に「気仙沼訪問」となるように、途中で宿泊地を選ぶ。</li> <li>c 計画の中に観光地の見学を入れてもよい。</li> </ul> </li> <li>・時刻表・地図帳・ワークシートを準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が活動しやすいように、あらかじめ人間関係を考慮して班を決めておく。</li> <li>・世界遺産に指定された平泉などを紹介する。</li> </ul>
展開 35分	<p>旅行計画をたてる。</p> <p>気仙沼市を疑似訪問する。</p>	<p>Q 目的地はどこにあり、どうやっていくのだろうか？</p> <p>①「気仙沼」はどこにあるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a 東北地方の何県にある市か？</li> <li>b 岐阜羽島駅からどのように鉄道を乗り継いでいくか？</li> </ul> <p>②時刻表を使って、気仙沼までの経路を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a グループで出発時間、到着時間、観光を入れるかどうか、宿泊地、ホテルの検討をする。</li> <li>b ワークシートにまとめる。</li> </ul> <p>Q 目的地はどのようなところだろうか？</p> <p>③地理情報システム（GIS）の画像をスクリーンに投影し、津波被害の様子を見る。詳しい市街図を配布し、郵便局など地図記号と実物を確認しながら見ていく。</p>	<p>○地図帳で目的地を確認し、時刻表の鉄道路線図を利用して現地まで到着する計画を立てるなど、諸資料から有用な情報を選択して、読み取ったりワークシートにまとめたりしている。(技)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地図帳や時刻表の中の路線図を使うことができる。</li> <li>・時刻表をグループ内でまわすなど、1人だけが調べて、他の人が書き写すだけにならないよう配慮する。</li> <li>・班の中で互いにコミュニケーションをとり、旅行計画が立てられるように配慮する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学習した地図記号に関する知識を確認する。</li> </ul>

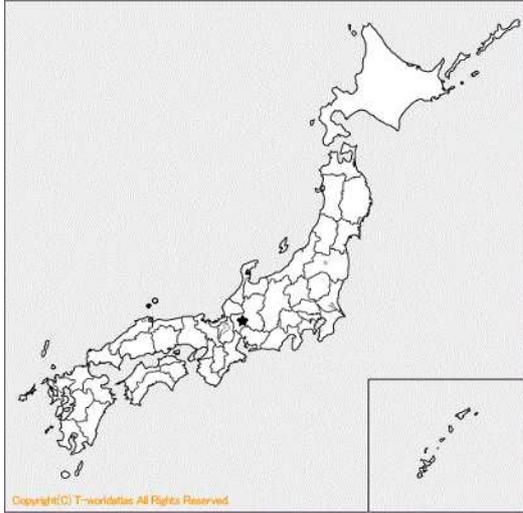
		<p>a 気仙沼駅（標高30m）を出発し、海岸方面に向かっていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">Q津波の被害はどこが大きいのだろう？</div> <p>b どれくらいの標高から津波の被害が出ているか。</p> <p>c 被害の大きい鹿折地区を見る。</p> <p>d 地震で津波が発生した場合にはどのような行動をとるべきか、意見を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平坦に見えるが、標高差がかなりある地形であることを理解できるよう配慮する。</li> <li>・災害時はどのような行動をとるべきかグループで話し合わせる。</li> </ul>
まとめ5分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の感想をワークシートに記入させる。</li> <li>・次回の予告をする。</li> </ul>	

※ ○は記録に残す評価。

行き先

**東北地方の気仙沼市** ( ) 県

日本地図と東北地方の地図に大まかな位置を書き込もう(★)



そこへ行くには・・・

( )線→( )線→( )線

駅名	時刻	種別 (普・特)	列車名(例:ひだ3号)	路線	待ち時間	備考
岐阜羽島駅	: 発			線	—	
駅	: 着				:	
	: 発			線	:	
駅	: 着				:	
	: 発			線	:	
駅	: 着				:	
	: 発			線	:	
駅	: 着				:	
	: 発			線	—	
駅	: 着					

## ホテルは3つのタイプから選べます!

選んだホテルにチェック→  和風温泉旅館タイプ(平泉駅・山あいの温泉地)



### 平泉観光ホテル

1泊2食和室7,600円 平泉駅より徒歩10分

ビジネスホテルタイプ(新幹線一ノ関駅前)

### ホテルビジネスインー関

1泊朝食3,990円 一ノ関駅より徒歩2分

海鮮料理温泉ホテルタイプ(気仙沼湾を一望できる・露天風呂あり)

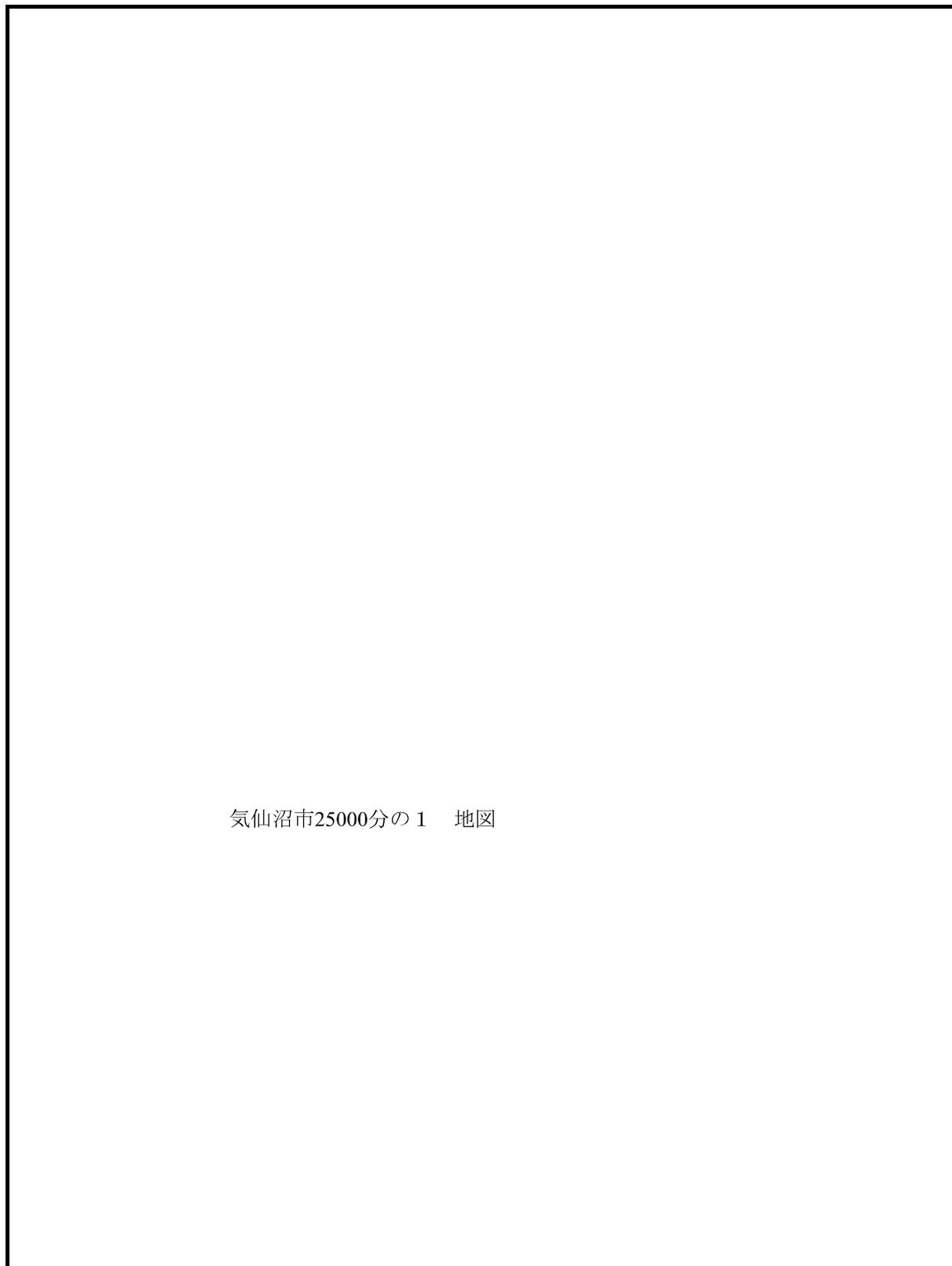
### 気仙沼ロイヤルホテル

1泊2食和室10,500円 気仙沼駅よりタクシー10分

地理No.30 **地理情報システム(GIS)を活用しよう!**

氏名( )

<作業> 画像を見ながら、たどった道を記入しよう。



Q1 被害が大きい場所と、被害がない場所との違いは？

大きい場所…

ない場所…



Q2 津波が来たら、どこへ避難すればいいのだろうか？

い場所

Q3 今日の授業について

(1) 時刻表の使い方・列車の利用法を理解できましたか？

(はい) A B C (いいえ)

(2) インターネット上の地図の使い方がわかりましたか？

(はい) A B C (いいえ)

(3) 津波のときはどのような行動をとるべきか理解できましたか？

(はい) A B C (いいえ)

授業の感想

## 授業の事後分析

### <授業で意識した点>

- ①学力が低く、中学校までの学習が定着していない生徒に対して「生きる力」として、地図の読図や、鉄道を利用して移動することなどを疑似体験させ、生活力を養う試みをした。
- ②新学習指導要領に示された「言語活動の充実」を踏まえ、グループ活動による話し合いを進める作業を取り入れた。
- ③地図や時刻表を駆使して実際の旅行プランを立てさせることで、生徒の興味を喚起し、積極的に授業に取り組めるようにしている。
- ④地理情報システム（GIS）を使うことで、疑似的なフィールドワークを体験することができるようにした。

### <授業の反省>

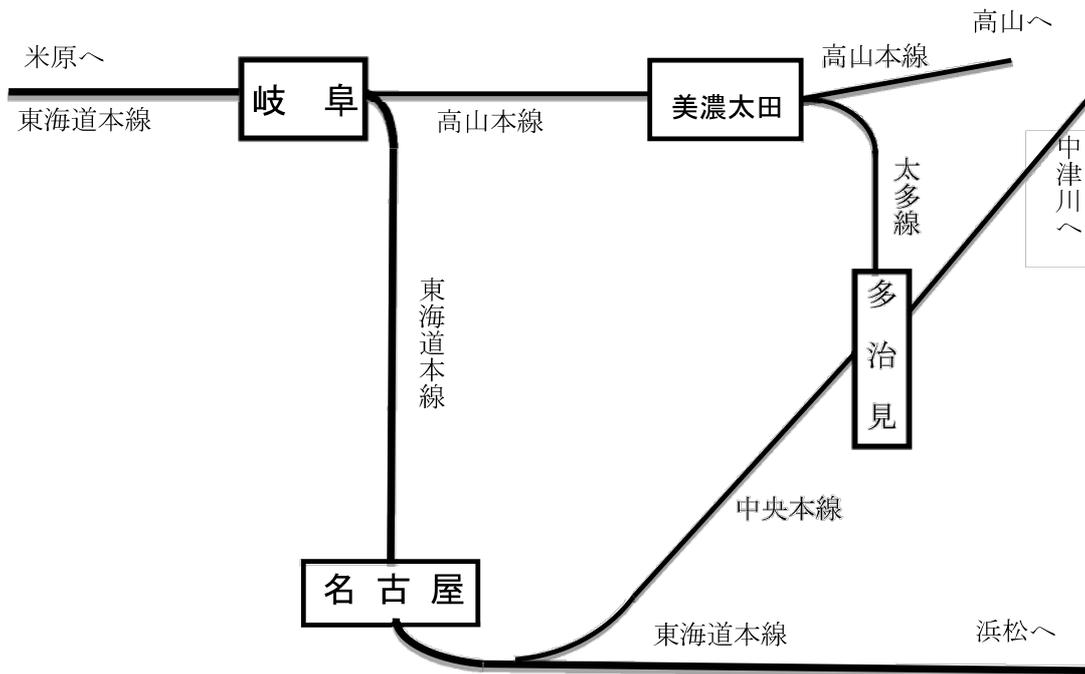
- ① 旅行プランの立案や地理情報システム（GIS）の地図画像を見て考察させるなど、1時間に盛り込みすぎたことで、時刻表をうまく使えない生徒への指導や疑問を持つ生徒への助言が不十分になってしまった。授業の流れから1時間で完結させたいが、2時間に分割してもよかったかもしれない。
- ② 一人一人の作業に目を配り、コミュニケーションをとりながら授業ができた。作業をしていない生徒がいなかった。そのために時間が多くかかった。
- ③ 本時の目標や、生徒にどんな力を付けさせるかを、明確にすべきであった。
- ④ 意識的に生徒に仕掛けをして、答えを導き出すように仕組むべきであった。自由な活動の中でどれだけ生徒の自由の発想や学習活動を認めるのかを判断するのは、非常に難しいと感じた。
- ⑤ 始めから時刻表を配布して、時刻表に掲載されている鉄道路線図を生徒に見せると、実際の地図と大きく異なるため混乱する。まずは地図帳できちんと確認した上で、多様な地図へ発展させるとよい。
- ⑥ 地図の記号を丁寧に○印を付けながら、地図を見ていくべきであった。
- ⑦ 発表することにこだわらなくても、地図の見方で「こうの方がよい」などと生徒が相互に教え合ったり考えたりしているので、十分に言語活動していると思われる。
- ⑧ 津波の到達ラインを検証する場合は、地図中の等高線をなぞらせる方が生徒に定着するのではないか。
- ⑨ 津波の映像を使用して、どこから撮影している映像かを地図の上から考えさせる、というような展開も考えられる。いろいろな方向に広がりをもつ授業であった。

### <生徒の感想>

- ・時刻表の使い方が少し分かった。津波が来たら高い所へ避難すべきだと実感できた。
- ・地理情報システムのことがよく分かった。
- ・おもしろかった。
- ・前回の授業より、時刻表の使い方がよく分かった。津波が来たときに少しでも高いところへ避難する

ことが大切だと分かった。

- 今まで時刻表の使い方が分からなかったけど、授業で使ってみて分かるようになった。津波の被害は標高が低い場所が大きいと分かったので、少しでも標高の高い所へ避難したいと思った。
- 今は携帯を使えば簡単に電車の時刻を知ることができるけど、時刻表を使うのもいいと思った。
- 標高の数メートルの差で津波の被害がすごく変わっていたので、少しでも高いところへ避難すべきことが、改めて分かった。被害の状況がはっきり分かり、すごかった。
- 羽島には海がなくてよかった。
- 地理情報システムを使ったので、現実味のある授業だった。新鮮な授業だった。
- 地理情報システムはすごいと思った。津波の被害が標高9 m以上の所は少ないことが分かった。
- 地図が立体的でわかりやすくおもしろかった。時刻表が分かりづらくて大変でした。
- 細かいところまでよく分かった。被害が大きい地域と少ない地域が近い距離に存在していることがとても不思議だった。
- 被災地の状況も知ることができたし、標高の違いによって被害が違うことも理解できた。時刻表の使い方も分かり、地図を見ることができるようになった。
- 津波怖いです。
- 津波の被害で建物がほとんど崩れていた。船が流されていた。
- 被災地の被害の大きさがすさまじく、2～3階建ての建物がほとんど壊されたことが分かった。防災訓練は真剣にやらなくてはならないと思った。
- 地理の勉強大好き。毎日やりたい。
- 今はインターネットで、行きたい場所を実際に見ることができるし、時刻表を使えば、全国の電車や新幹線の時間が分かるので、これから活用していきたいと思う。



問 時刻表の問題である。

9時ちょうどに岐阜駅にいる人が、下の時刻表を使って、最も早く多治見駅に着くことができるのは何時何分か。

この日は平日であるため、土休日運転の列車を使ってはならない。

高山本線の時刻表

中央本線の時刻表

東海道本線の時刻表

太多線の時刻表